

- (C) メアサは即日挿しと翌日挿しの場合と比較する時、翌日挿しが山出率良好であるが、地上高は逆に即日挿しが良好であつた。
- (D) ヒノキの場合
- (A) 山出率はグリーンナー試用の場合は無処理より概して良好であつた。ただ採穂後 30 時間経過の場合は無処理の場合よりよくなかつた。
- (B) 山出率はグリーンナー試用の場合 48 時間、18 時間、30 時間、24 時間、即日挿しの順であつた。
- (C) 山出率は無処理の場合は 30 時間、48 時間、18 時間、即日、24 時間経過の順であつた。
- (D) 地上高はグリーンナー試用の場合は無処理より概して良好であつた。ただ採穂後 30 時間経過の場合は山出率の場合と同様無処理の場合よりよくなかつた。
- (E) 地上高はグリーンナー試用の場合は即日、18 時

間、30 時間、48 時間、24 時間経過の順であつた。

- (F) 地上高は無処理の場合は 30 時間、18 時間、48 時間、即日、24 時間経過の順であつた。

4. 結 論

よき結論を得るに至らなかつたが、グリーンナー試用の場合が無処理の場合より成績はよいようである。今後更にグリーンナー倍液の種類を多くし研究にあたりたい。その他摘葉、石灰液、ワックス、パラフィン、石油乳剤、塩化ビニールやポリエチレン等を使用し山出率の向上、地上高の増大、更に又ヒノキの場合は仕合のものでも挿木できないものか研究に努めたい。

最後になつたが、本研究は出水管林署の御協力並びに鹿児島管林署松林技官の御教示のたまものであることを申し添える。

	母 樹	試料	穂長	処 理	採穂月日	挿 付 月 日	調査月日	山 出 苗		床 替 苗	
								%	地上高	%	地上高
ス ギ	雲 通 5 年	本	30 cm	グリーンナー五倍液	33. 2. 20	33. 2. 20	33. 11. 11	20	49	20	31
	"	"	"	無	"	"	"	17	47	16	34
	オ ビ 5 年	50	30	グリーンナー五倍液	33. 2. 21	33. 2. 21	33. 11. 11	4	38	4	30
	"	"	"	無	"	"	"	2	36	2	29
	メアサ 5 年	50	30	グリーンナー五倍液	33. 2. 21	33. 2. 21	33. 11. 11	32	37	—	—
	"	"	"	無	"	"	"	36	35	—	—
ヒ ノ キ	メアサ 5 年	50	30	グリーンナー五倍液	33. 2. 20	33. 2. 21	33. 11. 11	48	30	36	22
	"	"	"	無	"	"	"	48	29	44	19
	ヒノキ一年生	50	"	グリーンナー五倍液	33. 3. 21	33. 3. 21	33. 11. 11	26	36	72	24
	"	"	"	無	"	"	"	22	33	62	23
	ヒノキ一年生	50	"	グリーンナー五倍液	33. 3. 21	33. 3. 22午前 9 時	33. 11. 11	60	36	34	23
	"	"	"	無	"	"	"	34	34	54	23
ノ キ	ヒノキ一年生	50	"	グリーンナー五倍液	33. 3. 21	33. 3. 22午後 3 時	33. 11. 11	28	32	64	23
	"	"	"	無	"	"	"	16	30	80	21
	ヒノキ一年生	50	"	グリーンナー五倍液	33. 3. 21	33. 3. 23午前 9 時	33. 11. 11	48	35	42	24
	"	"	"	無	"	"	"	54	39	38	22
	ヒノキ一年生	50	"	グリーンナー五倍液	33. 3. 21	33. 3. 23午後 3 時	33. 11. 11	70	35	26	25
	"	"	"	無	"	"	"	46	34	44	24

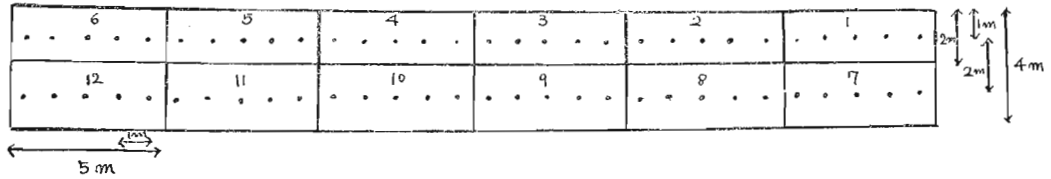
47. イタリア、ポプラ（主として 1-455）の肥培について

日本パルプ育林研究室 大 屋 襄 二

はじめに

当社では昭和 31 年 3 月よりイタリア・ポプラを主

とするポプラの養苗を行つているが、挿木増殖の事業と併行して各種肥培試験を実施している。着手したばかりで短期且つ不充分的調査ではあるが、肥培に関する



る 2, 3 の知見を得たので、その概況を報告する次第である。

I. 試験地

日南市星倉古河, 日本パルプ古河苗畑, 土壌, 沖積層土壌にシラスを埋立てたもの。

II. 試験方法

1. 基肥と生育 12の試験区を設け, 下図のような間隔で1試験区に5本の根苗を移植した。約1ヶ月毎に苗高を測定して各種肥料の基肥としての効果を調べた。

2. 追肥と生育 鶏糞を追肥として2回(7月30日と9月30日)与えた。試験区は3つ設けた。植栽間隔50cm。

3. 土壌酸土と生育 矢木式簡易土壌検定器を使用して土壌酸度(pH)を測定した。

III. 試験結果

1. 基肥と生育 昭和33年3月27日根苗移植

2. 追肥と生育 昭和33年3月27日根苗移植

1年生成苗木苗高平均値(単位 cm)

試験地 No.	1		2		3	
品 種	I-214		I-455		I-455	
基 肥	堆肥 7.5kg 溶燐 50g KCl 50g/本		堆 肥 過石 100g/m ²		堆 肥 溶燐 100g/m ²	
調査年月日	追肥の有無		追肥の有無		追肥の有無	
	追肥	対照	追肥	対照	追肥	対照
33. 7. 30	77	94	111	110	117	91
8. 9	90	103	123	112	137	104
8. 19	97	106	140	123	160	120
8. 29	98	106	159	133	172	133
9. 8	114	106	174	136	194	143
9. 18	136	106	193	157	212	152
9. 28	137	106	194	157	212	154
10. 10	137	106	194	157	212	154

* 鶏糞 250g/本 7月30日, 9月30日施肥
I-214 は, 6月12日, 0.5%尿素液撒布

I-455 1年生成苗木苗高平均値(単位 cm)

基 肥	調査月 日	33. 4	33. 5. 31	33. 7. 10	33. 8. 11	33. 9. 10	33. 10. 10
堆肥3.75kg, (山) 2号5ヶ		34	74	178	271	306	306
堆肥 3.75kg 神島化学C 100g		26	53	164	254	289	289
(山) 2号5ヶ		34	64	161	251	260	260
堆 肥 7.5kg		36	75	173	245	257	257
硫 安 30g, 溶 燐 40g 塩 化 加 里 30g		30	57	134	219	255	255
(山) 2号10ヶ		28	56	158	246	251	251
神 島 化 学 C 100g		23	51	155	228	244	244
堆 肥 3.75kg		24	48	141	207	224	224
硫 安 30g, 溶 燐 60g 塩 化 加 里 30g		21	53	123	199	214	214
神 島 化 学 C 50g		30	58	154	202	212	212
対 照 (無 肥 料)		19	32	80	142	165	165
神 島 化 学 C 33g		26	47	70	115	121	121

3. 土壌酸度と生育

IV. 考 察

①シラス土壌でも肥培によりポプラ林業は成立つことが判つた。又、本試験及び諸外国の例からみて、更

I-455 幼苗 (33.4.5 挿付)

調査地 苗高平均値(cm) 標本5本	基肥/m ²			土壌酸度(pH)	
	堆肥	過石	KCl	33.8.10	33.9.30
248	kg 11.5	g 60	g 30	7.0	7.0
203	15	60	30	6.5	5.8
77	11.5	60	30	5.5	5.5

* 6月12日0.2%尿素液撒布。

に多量の肥料を施して差支えなく、もつとよい成績が期待できるであろう。即ち苗高4m程のものが作れると思う。

②8月一杯で上長成長を終つてしまつた。ポプラはこのように早く1年の成長を終るので、基肥の効果が一層大きく現われるものと考え。幸い、病虫害が発生していない現在問題になつていないが、諸害に対する抵抗性も肥培によつて附与されるであろう。

③固形肥料②2号を使用したことについては猪熊東大教授より「広葉樹用①1号を使つたらどうか」との御指図を頂いた。溶燐、硫酸、塩化カリの混合は差支えないことになつているが、可成り問題があるのではなからうか。

④7月80日鶏糞250gr/本 追肥したものは9月20日頃迄伸びているのが観察された。9月30日の追肥

(寒肥)の影響は年内にはみられないであろう。肥大生長については今後測定を行うことにしている。

⑤生育のよい場所の土壌酸度は中性付近であり、悪いところはpH=5.5であつた。pH=7.0のところは麻芥処理場跡だとのことでその影響があるかも知れない。又pH=5.5でも肥料を多量に与えればよい生育を示すことは他の調査例で判つている。一般に肥料の植物体への吸収率は一部微量元素(Fe, Cu, Zn, Al等)を除けば、中性から酸性になるに従い、急激に減少するといわれるので、当然な結果とも思われる。ドイツの研究ではCaを大量に与えるとよいという報告があるが、pHによる肥料の効率以上の問題が存在するのかも知れない。

(参考)今年6月より9月までの気象は日南市として可成り特殊なものだつたので、表記する。

測定地 日南市星倉古河日本パルプ苗圃

項目 月別	降水 日数	降水量	最高 気温	最低 気温	平均 気温	平均 湿度
	H	ミリ	°C	°C	°C	%
6月	6	331	34	14	25.0	78.2
7月	10	83.7	38	22	29.9	80.7
8月	15	119.7	38	21	27.9	79.7
9月	8	116.3	34	17	26.7	79.7

48. ハゼ黒痘病に対する各種薬剤の撒布効果について

福岡県林業試験場 橋 本 平 一

ハゼ黒痘病については前報(1957年度九州支部講演集)において既に予報して紹介したが、今回は本病に対する薬剤撒布効果について概要を報告する。

従来よりハゼ樹の病虫害防除として薬剤撒布を実施した例はなく、その必要性がなかつたものと思われるが、近年本病の蔓延に伴い地元民の要望もあつて何等かの防除対策を講ずる必要にせまられている。防除としては先ず耐病性品種への切換えが望ましく、既存のハゼ樹に対しては薬剤撒布の確立が考えられる。しかしハゼ樹に対する薬剤撒布は栽培の特殊性から実用上種々の困難性を伴うことは明らかであるが、幸い本病のハゼの実に対する伝染期間が短いことが明らかとなり、薬剤撒布は実用上可能性があると推察されたので、1957, 58年2ヶ年間野外試験を実施した。

実験—I 試験地:福岡県筑後市内のハゼ園中央部3樹の任意の房(1区, 1樹, 3反復1処理3房)を

供試した。供試薬剤:等量石灰ボルドー, ウスプルン加用石灰ボルドー, 三共ボルドー, キャプタン剤, ダイセン, ウスプルン, 石灰硫黄合剤, 以上7種類を供試した。処理時期及び方法:7月1日撒布前に予め供試材を調査して罹病実を除却しバルサムスプレイにより充分撒布した。調査方法:7月18日に資料を採集して発病指数を算出した。発病指数は各々の粒毎にその発病程度を目測により微害(1), 軽(2), 中(3), 重(4)及び激害(5)と健全(0)の6段階に分け次の式で算出した。

$$\text{発病指数} = \frac{1n_1 + 2n_2 + 3n_3 + 4n_4 + 5n_5 + 0n_0}{N}$$

(但し N=総供試粒数, n=発病程度別粒数)。

実験結果 I (第1表参照)

ウスプルン加用石灰ボルドー, 三共ボルドー, 石灰ボルドーが優れた効力を示している。ダイセン, キャ